

広報伊達 136

発行日 令和2年7月20日

発行者 伊達地区小学校長会
会長 二階堂 康 男

編集 同 広報部

《 巻 頭 言 》



今、学校本来のあり方を考える

伊達地区小学校長会長
二階堂 康 男
(伊達市立梁川小学校長)

1 はじめに

今は5月中旬。新型コロナウイルス感染症対策のため、学校は臨時休業が継続している。学校に登校することが当たり前だった日常を取り戻せない状況の中で、「今、学校本来のあり方を考える」ことは、今後の学校の再開とその後の学校経営を進めるに当たって、校長が判断する際の基準としてとても大切なことではないだろうか。

2 学校で大事にすべきことは何か

臨時休業が続く中のある登校日、多くの子どもたちは、「学校に来てよかった」「先生や友達に久しぶりに会えてとてもうれしかった」など、登校できたことを喜んでいる。子どもたちは「学校が好き」「学校で先生や友達と一緒に過ごすことが好き」であることを改めて実感した。

学校は本来「授業」を中心として、友達と遊ぶ時間や給食の時間、清掃や係活動の時間など、全ての教育活動を通して、子どもたちを大きく育てる環境であることを再確認した。学校で過ごす中で学力はもちろんのこと、人と人とのつながりなど多くのことを学んでいるのである。

今後、学校が再開すれば、これまで以上に、「子どもたちがみんなで考えを出し合い共に学ぶ授業にすること」「子どもたちが協力しながら様々な教育活動と一緒にいること」を大事にする学校にしていかなければならないと考える。

3 校長のリーダーシップが問われている

いまだに収束の見通しが立たない中、学校の再開に当たっては、校長のリーダーシップが問われている。特に、次の3点を重視したい。

(1) 保護者に丁寧に説明すること

学校の安全面、健康面、学習面等への取組について丁寧に説明することである。学校再開に当たり、少しでも不安を解消することは、最低限必要なことである。

(2) 優先順位を考えること

学校が再開すれば、限られた時数の中で教育活動の何を優先するかを再検討しなければならない。その際に、「学校で大事にすべきことは何か」の視点で判断したい。

(3) 待つ校長(会)ではなく、発信する校長(会)に教育委員会の指示に基づくことはもちろんであるが、学校現場の実態を発信し、行政と連携しながら学校経営を進めることである。待つだけでなく、発信することが大切である。

4 新しい学校のあり方を見据えて

現在、社会のあり方が大きく動いている。自宅などでのテレワークが企業や官公庁でも本格化し、社会の変化が一層加速している。また、学校においても臨時休業の中で、ICTを活用したオンライン授業を導入したり、教員が自宅で勤務したりすることなども行われてきている。

このように、学校本来のあり方を考えるとともに、より一層新しい学校のあり方を見据えていかなければならない時代に直面している。

5 結びに

「新型コロナウイルスとの闘いはマラソンである。」京都大学 山中伸弥教授の言葉である。長期間に及ぶこの難局を乗り切るためには、校長会として共に前を向いて智恵を出し合い、子どもたちの健康と安全を確保し、学校で大事にすべきことを重視した学校経営を行っていかなければならない。

《 提 言 》



子ども読書活動の推進について

国見町教育委員会教育長 岡 崎 忠 昭

最初に結論を述べさせてもらおうと「子どもの読書に力を入れましょう」と提案させていただきたいということです。

子どもの読書活動の推進に関する法律第2条には、子どもの読書活動は「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものとし、人生をより深く生きる力を身に付ける上で欠くことができないもの」と謳われています。子どもの読書活動は、知的、情緒的、精神的な発達を促し、直接的な体験活動とともに、子どもたちが心身ともに健やかに成長していくための両輪です。読書は自分の人生を切り拓くための心の体力のようなものだと思っています。

ところが「本を読まなくなった」とはずいぶん前から言われています。小学生の不読率は年々改善されて平成29年度には5.6%であるものの特に高校生や大学生の不読率は50%を越しています。また、国際的な調査では児童・生徒の読解力の有意な低下も指摘されています。原因は例えばスマホ等の普及による読書環境の変化や家庭生活の変化などといわれています。改善のためには中学生までの読書習慣形成が不可欠であることから、発達段階ごとの効果的な取組を推進する必要があると述べられています。（「第四次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」から）

読書の習慣をもつことは確かな学力をつけ、豊かな人間性を形成し、より深く生きる力を身に付けることとなります。読書は「楽しみ」「好奇心」から始まります。家庭や保育所、幼稚園での読み聞かせや紙芝居などの楽しい体験から読書の楽しみを知り、本がある環境、継続的な読書の機会が整っていれば自然と本を読む子どもが育つのではないのでしょうか。

小学校時代は子どもの読書習慣が定着し継続していくための大切な時期だと思います。読書が習慣化する取組をぜひお願いしたいと思います。

※提案1 家読（うちどく）のススメ

家読は文字通り、家庭読書のことです。ノーメディアデーとして取り組まれることもありますが、私は月に何度かは家族が「読書」の時間を共有して「本」を媒介にした家族のコミュニケーションが深まればよいと思っています。家族にとっても楽しいいい時間になるはずですが、家族が単独で進めることは難しいので、PTAや地域の取組とすることを働きかけたり、例えば「家読の日」を設定し「読書だより」などに家読の感想を掲載したりしてほしいと思います。家族の背中をそっとう押し上げることです。

※提案2 子ども司書の活躍

どこの小学校にも「図書係」の児童がいると思います。「司書」は専門資格ですが司書としての勉強をして「子ども司書」として活躍させてみませんか。子どもたちは独創的な企画力と実行力を持っています。「読書フェスタ」や「読み聞かせ会」「ペープサート」等々自分たちで企画し開催したという実績もあります。学校は子どもが主人公となって進める機会を作っただけでいいのです。

※提案3 保育所や幼稚園との連携

就学前の読書体験はとても大事。保育所や幼稚園は家族を巻き込んで様々な読書活動を行っています。連携し「読書」の取組をつなげさらに進化させてほしいと思います。

県北地区が読書の街になることを期待しています。

《 新 会 員 よ り 》

変化に対応できる資質・能力の育成を

伊達市立伊達東小学校長 緑 上 隆

教頭として2年間勤めた伊達東小学校に4年ぶりに勤務できることを、大変嬉しく思っております。あらためて本校の学区を巡ってみました。学区内を通る相馬福島道路の建設が進んでおり、通学路や周辺の居住地など環境が大きく変わっていることに気がつきました。大型クレーンも日々忙しく動いており、工事現場へのトラックの出入りも多いため、交通安全に十分留意するよう指導しているところです。今後、この道路が完成すれば、地域にもさらに大きな変化が見られるかもしれません。

大きな変化は、社会全体にも起こっています。今の一番の大きな変化といえば、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、その拡大防止のために新しい生活様式が必要になってきたことです。その変化をまず私たちがしっかり受け止めるとともに、子どもたちには、変化の意味を考えさせ、それに対応できる資質・能力を育てていかなければならないと感じています。

今後とも、校長会の皆様のご指導、ご助言をいただきながら努力して参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

「神樹」ニワウルシに見守られて

伊達市立掛田小学校長 渡 邊 かおり

「にわうるしの大木のように、たくましく育っていきたい」創立百周年記念誌に記された当時の児童会長の言葉です。現在の地に移転する前から、本校には巨大なニワウルシがあり、その壮大な様子から学校のシンボルとして学校文集や学校だよりの名前として使われてきました。ニワウルシのようにたくましく成長してほしいという願いは、昔も今も変わりません。解のない時代(新しい感染症対応も含め)に生きる子どもたちには、膨大な情報の中から正しい判断をし、仲間と一緒に何度も挑戦し協働する「柔軟でたくましい力」が求められることでしょう。そんな子どもを育みたい

と、本校では教職員自身が「できない」ではなく「どうやったらできるか」と試行錯誤を重ね、よりよい教育を追い求め臨機応変に対応する、まさに主体的・対話的で深い学びを行っています。校長として、教職員の熱い想いや取組がニワウルシのようにたくましく生きる子どもの未来に繋がることを信じ、これからも全力で支えています。天に届くほど早く大きく育つことから別名「神樹」とも呼ばれるニワウルシ。今日も校庭に大きく枝を広げ、元気に学校生活を送る子どもたちそして教職員たちを静かに見守っています。校長会の皆様、ご指導をよろしくお願いいたします。

幸せと感謝の中で

伊達市立小国小学校長 塩 田 俊 郎

初めてきちんと視聴したNHK大河ドラマは、今から30年以上前に放送された「独眼竜政宗」でした。そこから戦国武将「伊達政宗」に興味をもち、やがて一番好きな武将となりました。その伊達氏発祥の地である伊達の地に赴任させていただいたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。

小国小学校は全校児童22名の小さな学校です。子どもたちは、まるでみんな兄弟のように、温かい雰囲気の中で生活しています。休み時間には、1年生から6年生までが一緒になって鬼ごっこをして遊んでいます。下校時は全員が、スクールバ

ス等で帰ります。先生方は、バスが見えなくなるまで「さようなら」と手を振り続け、バスの中の子どもたちもまた、いつまでも手を振り続けています。これらの心温まるすてきな光景が毎日見られることに、幸せと感謝の思いを抱かずにはいられません。また、保護者、地域の皆様からも、日々、心強いサポートをいただいております。

校長としては分からないことが多く、先輩の校長先生方に御指導を仰ぐことばかりですが、精いっぱい努力してまいります。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

小規模校の良さを最大限に

伊達市立大石小学校長 二 瓶 匡 弘

霊山の麓にある自然豊かで伝統のある大石小学校に着任し、2か月が過ぎました。一人で校長室にいることにも大分慣れ、「校長先生」の言葉に対しても反応し、校長室で考える余裕も少しできました。

本校は、児童数12名の小規模校です。学校行事には郷土学習として、濫じょうの舞体験や養蚕体験、霊山太鼓などがあります。特に濫じょうの舞では、子どもも教職員も4月に行われる霊山神社の春の例祭で演舞を披露します。(今年はコロナの影響で中止でしたが来年度を楽しみに)また、

様々な場面で地域の方々にお世話になりながら教育活動を進めています。

年度始めに、教職員と子どもたちに“ことば”を大切にしながら、あ(明るく)・た(楽しく)・ま(前向き)に、様々な職務(活動)に取り組んでいこうと話をしました。校長として自らこの姿勢を実践し、子どもの良さを最大限に生かすため、学校の強みを生かし、地域と連携を図りながら学校経営にあたっていきたいと思います。校長会の皆様には、今後ともご指導のほどよろしく願いいたします。

夢、笑顔、元気いっぱいの学校

桑折町立半田醸芳小学校長 遠 藤 和 宏

2年ぶりに伊達地区そして桑折町で勤務することができる喜びを味わいながらも、その責務の重さを感じているところです。2年前、隣の学校に勤務していたわりには、ここ半田地区のことをよく知らなかったと勉強不足を反省しています。

校歌に「桜花咲く新沼や」とあります。あれ、学校近くにそんな沼はないぞ。調べてみると、日本三大銀山のひとつと称された「半田山」が、明治34年頃から大規模な地すべり崩壊を起こし、山の中腹にあった旧半田沼が消滅し、南側に現在の半田沼つまり「新沼」が出現したというのです。

校歌を紐解くと、その地区の歴史も見えてきます。

そんな歴史ある半田醸芳小学校に通う99名の子どもたちに「夢、笑顔、元気」を与えることが我々の使命だと考えます。それを実現するキーワードが「半田プライド」であり「チーム半田」です。ふるさと半田を愛し、高い志と意志を持ち、地域と共に学ぶ半田っ子の育成を目指し、教職員一同がしっかりスクラムを組んでまいります。微力ではありますが、子どもたちのために全力で頑張ります。地区の校長先生方、どうぞよろしく願いいたします。

「一流」を目指して

国見町立国見小学校長 本 多 康 弘

世界各地で拡大した新型コロナウイルス感染症は、学校も様変わりさせました。この間、町教育委員会を始め、保護者、地域の方、教職員が一丸となって教育活動を進めることができ感謝の気持ちでいっぱいです。今では校舎に響く元気な声を耳にし、その輝いた目を見る度に、学校の存在意義を感じています。

さて、4月に一年生と出会いました。3月には中高生の卒業を見送った後での小さな姿から、あわせて12年間を経た成長と学校教育の重さを

身にしみて感じました。2年ぶりの小学校勤務で、毎日が新鮮なことばかりです。子どもと共に成長しながら「一流」を目指していきたいと思います。

本校は町内5校を統合し、それぞれの学校の素晴らしさを受け継いでいます。新学習指導要領のもと、この変革の時代でも自らしっかりと進むことができる学校、児童育成を目指して、「これまで」と「これから」を見通しながら学校運営にあたっていきたいと思います。今後も伊達地区の校長先生方のご指導をどうぞよろしく願いいたします。

編集後記

新しく6名の会員をお迎えし、令和2年度伊達地区小学校長会がスタートしました。ご多用の中、玉稿を賜りました国見町教育委員会教育長様はじめ、地区小学校長会長様、諸校長先生方に心より御礼申し上げます。新型コロナウイルス対策で大変な年になりそうですが、校長会が一丸となって乗り越えていきましょう。ここに136号をお届けします。